



未来からの留学生



認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイブルキッズ 施設長 長島弥生



梅雨に入り、毎日ジメジメした日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。子どもたちは、雨の音を聞いたり、園庭で雨上がりの水たまりで遊んだり、保育室にアジサイを作って飾ったり、梅雨の時期を楽しんでいます。

また、梅雨の晴れ間には、水遊び、プール遊びを楽しんでほしいと思います。子どもたちが入る3～5歳児のプールは、保護者会「お父さんスタッフ係」の皆様が設置してくださいました。子どもたちは、「プールだ!!」と大喜びで「うちのお父さんが作ったんだよ」と友だちに誇らしげに言っている子どももいました。自分たちのために力を発揮してくれた嬉しさを感じていたようです。お父さんスタッフ係の皆様、子どもたちのためにお力添えいただき、ありがとうございました。



プール設営の様子



0～2歳児



3～5歳児

安全な施設の利用のために・・・

先日、全園児・みちくさ・課外で利用する小学生の保護者の皆様をお願いの案内を配信または配布させていただきました「メイブルパーク、みんなのはらっぱの利用について」「夕方の園庭の利用について」の件では、ご協力いただきまして、感謝申し上げます。

乳幼児期で大事にしたい生活習慣のためにも、早寝早起きは心掛けたいものです。時間が決まっていることで、帰宅するのがスムーズになるのではないかと思います、メイブルパークの利用時間を設定しています。また、バンビーニ利用の子どもたちにメイブルパークの利用時間について、話をしています。子どもたちと園と保護者で共有し、子どもたちが自分で区切りをつけられるようになるために、大人たちも統一した関わりをしたいと思います。

なかなか、気持ちが切り替えられないお子さんもいらっしゃるかもしれませんが、「すべり台滑ったら帰ろうね」「今日は、17時過ぎているから、また後で遊ぼうね」などと、遊びたい気持ちを受け止めつつ、区切りが付けられるような関わりが目指せるといいですね。今後も話題にして、子どもたちにリズムが浸透するようにしていきたいと思います。

今後とも、安全な施設の利用のために、皆様のご協力をお願いします。



さて、今月、来月連載で、理事長をゲストとし「架け橋プログラム」について、お届けします。





— PART I —

『幼児教育と小学校教育の架け橋プログラム』
(略して「架け橋プログラム」) とは？

Guest 理事長 中山 昌樹



「架け橋プログラム」は去年スタートしました。これはあまり知られていませんが、国をあげての教育改革なのです。

私は、文科省に設置された委員会のメンバーとして、微力ながらこのプログラムに貢献しました。ここでその経験を土台に、このプログラムのポイントを2回に分けてお伝えします。

まず0歳から18歳までの成長を通して見ると、5歳児と1年生の2年間の教育がとても大事とわかってきました。この時期は、思い切り遊び込んで身につけた力が、小学校以降の意識的な学びにつながる基盤の時期。一方でこの2年間は発達の大きな段差の時期なので、ていねいに接続しないと、場合によってはこれが不登校の要因にもなりかねない、重要な時期なのです。



【この時期に育てたい基盤】

子どもたちはこれから、先を見通すことが難しい社会を生きていきます。そこではかつての、一方的に先生が教えることを暗記する教育では歯が立ちません。求められる力は自分で課題を見つけ、時には対立しながら協力し、これを発信し、交渉し……。ある時は失敗し落ち込み、また前向きになる「レジリエンス」という力も求められます。

このような力を「非認知的能力」と言います。簡単に言うと一生を生き抜く力です。ある幼児教育を受けた子どもが、この生き抜く力を獲得することを、米国の「ペリー就学前プロジェクト」が証明しています（子どもたちが大人になるまでの追跡調査により）。

その幼児教育を私なりにお伝えすると、

- ① 頭・心・体を使った実際の体験を重視する
- ② 子どもが自分からそのことをやってみたくなるような状況が作られている
- ③ 保護者が子どもの成長に寄り添っている

この時期に、どんな幼児教育を受けたのが格差にならないよう、国は警鐘を鳴らしています。思い切り遊び込むことが、一生を生き抜く力を育てるからです。



続きは次号。

